



衣類下

衣類

○十二ヒトヘ單ヒトヘ○十二ヒトヘのオニツ法衣ヒトヘ○ヌツ衣ヒトヘ上ヒトヘ日ヒトヘ

○かキヌ衣ウヘ○素ハカマ袴ウヘ○上ウヘ衣キヌ  
多タひヒそソめメ  
くクちチのノろロ

もえき ささササきキ  
襦ユのノ袷アヲをヲのノ類ルイ  
胡コ物モノ○北カ日ヒ子コ  
かカのノちチのノすスくク

襦ユのノ袷アヲをヲのノ類ルイ  
襦ユのノ袷アヲをヲのノ類ルイ  
襦ユのノ袷アヲをヲのノ類ルイ

○緋ヒ袴ハカマ○板イタ引ヒキ○文フナりリ文フナりリ

○胡コ物モノ○緋ヒ袴ハカマ○板イタ引ヒキ○文フナりリ文フナりリ

ひねりかき日上の後。裾上ワキアケは裾上は裾上てを

らうミツ衣のの。裳の袖はき上の衣のはく

ははるるが毒花そき女のはおとけはいいけ

かはららゆく。裳上も下も下も

しをりのもしのいめのもはらら衣のはからるは

。おわらるる。上上裳の袖はも上裳はるる

おりゆく迄迄或はははるるままををおおほほのはくく肩は

ひきひつけつけつけつけつきとあり上裳のもく。裾裾

女はらら衣の上はもも田田男男ははるるの上ももうう

白氏青羅羅裙裙帯帯。袷袷云云上上曰曰裙下曰曰裳裳宋宋女女之

装束也。肩上中中。領中。帔中。幟中

万考お申申依依依依依依ひひれれららととつつききくく袖のややももえ

ゆれとと袖はああ。頸のももうう。孟孟ひひれれハハ女女層層の

註曰婦婦人人頭頭飾飾也也矣矣。松松。女女ののああををももとと

のもううききぬぬららんんひひれれととぬぬ。ままいいつつままッッ世世の

下下ららハハ家家女女ののひひれれハハけけれれとと上上ッッ世世ハハ物物了了て

女女ののううけけ。又又ハハ重重。ハハひひれれハハ袖袖ららううととあり





○古不さしそく

河内市女はまはきぬき  
たつ女をつかさうそくとふ

○盃ををつわめ

○香たの夜。後夜

○衣をすよたきもの  
すう時伏せぬようけり

○腰ざし  
女群人の夜  
とこよまさを

○子子

巫の群衣と津皮のまろハセニ人  
斗ハ大和錦練式ハ布

○掛帯

岷 抱もくろくるとよ女のわらうそく  
巫女の猪こ 遙 子あうらる常川せ

○柎すりの衣

又柎すりともはふの柎まりの  
衣を到けふの衣をまてんと

○かー小袖  
いすハ男女の衣をよまうそく  
あひひくくしむりの衣のたさ

めむハ男女異まの衣も天衣のけハ袖は  
うりらん後すもあらくすのえ申おの衣をえ  
たりーすうそく

○袴

お衣のろつと げあまをいろりの山の  
もみろそハあをうりーよりあひそまき

○たぐい

馬并集は袴をよい申きあはまの  
やうよーくまろそく

○はふの細布  
あよ。身の代衣

一衣又初の時抱抱はまをセカ衣をおをよ  
とよまをよハハはあめの衣のまろそく

○小扱衣 サヨコロモ

彩ちりさるきしよ。おときくらのとよね我つまきぬつまるかしひら

○ゆきき衣 キヌ

ゆききぬしんはいつらんあききのゆききぬのねらうのききりうとし 和泉式ア

○中の衣

人とはくを合さる丸着よりすを ハナシはあの人と

○とき衣

あききしやあつあつあとのとき衣 カイトリ

○衣交

衣交の歌 ○ カイトリ 襦袢くちうけ

かしらきりあつあつあつあつ

○被

をいつらうとふ カッキ

○ふり袖

○こめ袖 ○ つめ袖 東亦袖 我そて

○袖匹

○白重 四月彩りし十月をこし

○黒ね梅

地黒く女房き一の梅と 嫁礼の時 白を用されハ地黒を 地黒

○腰巻

嫁礼の時 ハ 伯めひ箱し

○仇し理深

○友祥深 ○ 箭戸深 ユウセン ニカゴ







いらする女房の産の赤うくのよまユカダヒラ。○**明衣** よま日  
おぬひまゐるすしーの白き衣のよま

○ふこの。御布キヤフ。あまも女のえり

いぐいぐとよミタウツ。○**襪** もろりーまにきまの  
今来よう帰るゑる

あまもカタミ。○**はふ足袋** 古一婦女の  
あまもカタミ。○**記念** カタミ。○**形見**。○**信伊** 衣類を相敷

あまもカタミ。○**記念** カタミ。○**形見**。○**信伊** 衣類を相敷

送用

○**鏡** 立合せ 古九

小八寸 一ひめ 一膚 一く 一架

一のる 一あ 一と 一ひ 一ひ

一ね 一十 一十 一十 一十

○**ま** 一ま 一ま 一ま 一ま

まの淵説ままうまハまの後の田考語大ゆひと中指  
とるるをタ思とよまる八寸あるあま八思とよま  
是を上つ代の後の寸より即古太の八寸は出る



○<sup>ナケ</sup>投擲 いむる ○<sup>イ</sup>倅須の いすの木ハ長

○<sup>スギノ</sup>筧 の歯を引 ○<sup>ス</sup>玉擲る

○<sup>ミク</sup>玉擲首 ○<sup>ハコ</sup>玉匣 ○<sup>トモ</sup>篋

○<sup>ミ</sup>かけ篋 上 ○<sup>ハコ</sup>巾箱 上

○<sup>ツ</sup>凡擲 の格 五音の時

○<sup>カ</sup>髪擲 竹の ○<sup>カ</sup>の

○<sup>マ</sup>枕 のちり 後 仮

○<sup>カ</sup>香 比目の 袖 の 後

○<sup>マ</sup>の の 後 仮

○<sup>マ</sup>目 を の 後 仮

○<sup>マ</sup>古 の 後 仮

○<sup>マ</sup>古 の 後 仮

○<sup>マ</sup>古 の 後 仮

○<sup>モトユヒ</sup>髪。初。おけひつるんも髪きとどひ  
よときはおの髪しけすハ原

○<sup>トシホフ</sup>待元結。おえ結ともつじ地惣令よ  
ね作をゆくとおのね

○<sup>オシロイ</sup>沖。引裂。小引さきとよふ  
多の字

○<sup>オシロイ</sup>髪。太長。結。元結  
和月沙門親成始て依

○<sup>オシロイ</sup>髪。おいもの。和  
目持統天皇六年五

○<sup>オシロイ</sup>髪。おいもの。和  
和月沙門親成始て依

○<sup>オシロイ</sup>髪。おいもの。和  
和月沙門親成始て依

○<sup>オシロイ</sup>髪。おいもの。和  
和月沙門親成始て依

○<sup>オシロイ</sup>髪。おいもの。和  
和月沙門親成始て依

○<sup>オシロイ</sup>髪。おいもの。和  
和月沙門親成始て依

○<sup>オシロイ</sup>髪。おいもの。和  
和月沙門親成始て依

○<sup>オシロイ</sup>髪。おいもの。和  
和月沙門親成始て依

○<sup>オシロイ</sup>髪。おいもの。和  
和月沙門親成始て依

○<sup>オシロイ</sup>髪。おいもの。和  
和月沙門親成始て依

○<sup>キハスミ</sup>陰<sup>ハスミ</sup>。○<sup>コノリ</sup>すま<sup>ハ</sup>。○<sup>コノリ</sup>小<sup>ハ</sup>氣<sup>ハ</sup>。  
解衣の ○<sup>コノリ</sup>小<sup>ハ</sup>氣<sup>ハ</sup>。  
馬やき ○<sup>コノリ</sup>小<sup>ハ</sup>氣<sup>ハ</sup>。  
紅花

油をんをこまのあつとてぬ。

○<sup>ホハニ</sup>ね<sup>ハ</sup>。○<sup>ホハニ</sup>燕<sup>ハ</sup>脂<sup>ハ</sup>。○<sup>ホハニ</sup>的<sup>ハ</sup>。  
口へよ ○<sup>ホハニ</sup>的<sup>ハ</sup>。  
つま ○<sup>ホハニ</sup>的<sup>ハ</sup>。  
つま ○<sup>ホハニ</sup>的<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>白<sup>ハ</sup>。○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
ひんつけ ○<sup>ヒク</sup>白<sup>ハ</sup>。○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
ひんつけ ○<sup>ヒク</sup>白<sup>ハ</sup>。○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
ひんつけ ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
ひんつけ ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>茶<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>油<sup>ハ</sup>。  
遵云觀坐主花白有七草花聚 ○<sup>ヒク</sup>茶<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>油<sup>ハ</sup>。  
遵云觀坐主花白有七草花聚 ○<sup>ヒク</sup>茶<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
如簇葉不甚高可供婦女時粧 ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
如簇葉不甚高可供婦女時粧 ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
陳義志云 ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
陳義志云 ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
和<sup>阿布良</sup>和<sup>大</sup> ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
和<sup>阿布良</sup>和<sup>大</sup> ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
村上天皇の時 ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
村上天皇の時 ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
付眉つらうをくろめりて ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
付眉つらうをくろめりて ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
油をひく ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
油をひく ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
毛をひく ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
毛をひく ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
毛をひく ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
毛をひく ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
毛をひく ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。  
毛をひく ○<sup>ヒク</sup>油<sup>ハ</sup>。

○繪合 函のハ月十日 ○身合 天徳四年永兼日兼曆二年 ○兼合

○貝合 貝捕 ○弁貝 接松

○頭合 カク ○弁繪 栞

○虫え カク ○か茂 コモリ

○双六 其ハ女性の歌 ○偏続 へんつととも女性の花

○篇突 へんツキ ○遠遙 へんを以て何と云ふと

○韻塞 古より依あり詩のち字一字つら

○文字 モ ○釘 ツクリ ○余知 余知之

○歌 法曰 ○林の田 林の田のうら

○彈 タ ○五雜 五雜俎 ○今関中 今関中 ○婦人 婦人 ○女子 女子 ○尚右 尚右 ○彈 彈

○子之 子之 ○就似 就似 ○闡 闡 ○茗 茗 ○畧 畧





○**惣夫憐**

ふり平調おとまをわつとよめる  
少くは女をいひくつと憐

○**惣夫** 女をいひくつと憐と云ふは  
は朱ハ女男をいひくつと憐の意ハあつた晋の王侯  
大臣と云ふは蓮を植てをむつたの意

○**薬玉**

續今下編 靈絲 華ハ系不  
女をいひくつと憐

○**玉** 女をいひくつと憐

○**香**

十種香 系系 五香  
小く香 香合 原平  
名不 いろひ 階鞠  
原氏 云夕 異越 位在  
百和 翻新 競了 反魂

芙蓉

たき組の

四季

恋の

芙蓉

人

名

松

○**心字香**

心字の持てて心字を炉中  
しりてたき

○**衣袖香**

えひうと衣袖ようつまはきぬ  
くえとよと子函 えひのうと

○**たき**

きぬま 無右席

○**芙蓉**

○**あせ香** ○**掛香**

○**香囊**

○**悼** ○**白の玉** ○**空鏡**

○**伽羅** ○**辛南**

たきもの 一とく 一とく 一とく 一とく 一とく 一とく 一とく 一とく 一とく 一とく 一とく 一とく 一とく 一とく

香多 一袋 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札

香多 一袋 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札

香多 一袋 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札

香多 一袋 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札 一札

卓鏡の徳 一〇 大丸 内ハ云ハ本マてよ...

香 一〇 香 一〇 香 一〇 香 一〇 香 一〇 香 一〇 香 一〇 香 一〇 香 一〇 香 一〇

まがり 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

舟 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

お 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

東大寺 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

八重垣 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

山陰 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三十九子系 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

魚

魚

新伽羅

不二の煙  
寫士  
雅波  
初  
為江菜

羅

古來  
あやめ  
八搭  
月良  
二寸代

吉那班

川  
子  
梅  
金  
菜子  
夕  
伍森  
辛  
梅

吉那班

直梯  
維子  
夕  
花  
日影

雪月花集

沖  
林  
下  
立  
柳  
山陰

人  
備  
二  
總  
斜  
お  
お

角  
二  
總  
斜  
お  
お

月  
角  
二  
總  
斜  
お  
お

お  
お  
お  
お  
お  
お



意 集

まろり理  
不二  
立孫神  
不二のり  
玉葉  
牡角  
るろの橋  
まどま  
山陰  
名橋  
林重  
葉山  
ゆき

れ守  
のこや  
塔屋  
らん  
立田  
山ご  
あや免  
うろや  
草の花  
名橋  
お  
牛重  
まのふ

三十月  
橋  
ふよ  
古  
仙  
くも玉  
厚衣  
夕暮  
幽  
十九  
初  
八  
志  
新

水舟  
うぶ  
庭棟  
訪友  
よこ  
又月  
まがき  
小  
悠  
うた  
お  
は  
花

山  
夕秀

まろり  
うん  
月  
山  
異  
名  
夕  
重  
旧  
志

東極乃卷所持

一  
眺  
梅  
幹  
隆  
ふ  
老  
林  
林  
深

山  
里  
理  
宰  
人  
噴  
忍  
陵  
格  
あ

山  
破  
房  
赤  
ま  
老  
重  
牛  
河

あ

初

逢

意 集

意 集

芳村

竹葉

吐月

小香

村の

風

庭

早苗

志

晚花

漏月

秋

水

培

老

客

雲

六月

雲抄

柳

霧

雲

喜

子

鷗

落

嶺

柳

牡

秋

喜

柳

深

初

長

柳

鶴

百

第

柳

尾

麻

送

夕

星

丹

晴

花

新

橋

法

古

海

山

本

村

花

多

風

秋

友

文

為

喜

一

曉

斜

小

花

水

喜

小

冬

彌

映

又

春

山

秋

又

夕

如

彩

玉

林

不

夕

子

夕

不

夕

子

夕

不

夕

子

二十

星合 尾上 山首 深山 牡有 鷗有 霧有 雲有 水有 志有 村有

杉川 丹松 麻松 百松 初喜 秋喜 落喜 雲喜 六月 培喜 晚喜 風喜 竹喜

以柳 晴秀 送喜 第喜 長喜 嶺喜 老喜 漏喜 庭喜 吐喜

花林 夕月 和語 溪柳 柳花 柳花 柳花 柳花 柳花 柳花

六十六

類聚

七

急の梅

杉系

あま

三

片系

さくら

子

けいりん

倉

桑を伝

楠下

山さく

いんり

あま

まきの産

木の重

浅水

あな

海苔

五月

山下

法花

一文

十種秀進

雲城

念珠

池介

赤梅

舟

仏

大西三条京清秀く目録を月花集志  
志智宗信付字下おろし  
大枝流芳校正

おと志智宗信く目録を月花集志

シロ

名目録あり

余り難く見せし目録

〇 釧

ヒキキ

和名 釧比知萬岐子の付は  
巻おくと 可 正きもこハトシ

ろくありらんたるの神おくのこ巻ているまを

〇 川の終

五 銀

女のものよ巻地  
ここの場ふよ

〇 指

戒

婦巾

〇 池の川

一 侍

一 侍

〇 みちのく

紙

紙

〇 紙

紙

紙

紙

紙

たろ

たろをたろこかきしるるこ  
女性のスこまはるへきもの

お色

刺刀。あをひだ  
刀しへれの  
法とらぬし

粉の

法ツルのオヒ帯  
其よまを男子  
の法とらぬし

名刀

カモ  
毛序し古まの  
かをもあてめし。屏風

足柄

足柄。衣カ柄  
えらけ  
えらけ

いた

すこて田舎の女  
たろとらぬし  
お色

はるこのろの多をいしき女の  
いしきとらぬし  
いしきとらぬし

後の

女のえけら  
後まてつくる  
笛は杖の麻とらぬし

泊来

あまのぬれきぬとらぬし  
あし又舟つら  
あしぬれきぬとらぬし

福亦

お相のえとらぬし  
えとらぬし  
えとらぬし

蜩

お宮。おの  
おの  
おの

おき

おきとらぬし  
おきとらぬし  
おきとらぬし

機

はるる  
おの  
おの

一の

おの  
おの  
おの



くねる。あやえ。織友。經。  
又キ 緯。箴。笠冠。框。機。踏。機。  
チサカニチ 梭。杼。蟹。鮑。簍。篋。篋。簇。橫。  
キスリ 苧子。髪。膝。綾竹。  
ヒキイト 糸。尾。風車。儀。の。瓜。榎。  
ヒキ 骨。糸。儀。車。給。儀。  
ヒキ が。屋。の。儀。木。臥。機。

綜。持。まる。ぬく。機。  
ヒキ 紗。子。經。車。籘。車。題。  
カセ 織。後。友。板。腰。當。お。しり。  
セ 糸。を。ま。と。う。き。を。ま。と。う。き。  
カセ 糸。を。ま。と。う。き。を。ま。と。う。き。  
ヒキ 糸。を。ま。と。う。き。を。ま。と。う。き。  
ヒキ 糸。を。ま。と。う。き。を。ま。と。う。き。  
ヒキ 糸。を。ま。と。う。き。を。ま。と。う。き。  
ヒキ 糸。を。ま。と。う。き。を。ま。と。う。き。

おろりらそりら。きりららら。ちりらら。

○キヨウケツトウ 妖狐 荑系九穴守 スとおるまろくおろ

○アリンコニイトラツケ 占 コノツノアサヲミナセテ

○山菱 山菱 口ス

○苗 苗 龜の

○甲の 甲の 糞の

○夕卦 夕卦 山菱の占

○山菱の葉をむかひ合て 山菱の葉をむかひ合て を末を巫は流しをふ

○楯のえを鳴く 楯のえを鳴く 松のふけとまや

○女保 女保 志よ不ハ登る上取の

○速流 速流 婦人のまる上取の

○花ぬり 花ぬり 梅の花

○桔梗 桔梗 つかさすそくの登

○市女 市女 ろり

○目狭 目狭 メセキ

○浮世 浮世 のえろりと

○かくき かくき 志よ不ハ登る上取の

○女保 女保 志よ不ハ登る上取の

○速流 速流 婦人のまる上取の

○花ぬり 花ぬり 梅の花

○桔梗 桔梗 つかさすそくの登

くがー 女女を  
はらさ ことむしこき  
とやせこき

伊勢編ー ぶせあきー

日傘 かさのうら

花笠 虫ね 袖 びりー  
ひちー ころけのー

あー ぎぬー つ不ー さらー ばー

おるひー ちりきー ね合ー ね合ー ね合ー

車 緑毛車 磯系 内祝王内令路  
更衣上の車

毛ー 上日 車 大長 若老 女席 更衣  
るとの車 牛のゆるゆる西を

横掃毛ー ひんろー のあそ 休所ー  
ひんろー ぼの系

佃代ー 息あ の 志のびー 眠 女の系  
女車 眠 倍の女房の車

副ー 女車 眠 倍の女房の車  
ひとたまへトモ

人送 出車 同上花き 公あううも人  
まのみふあふひとたまへトモ

車の畑 車 上 出

車 上 出

源氏物語

七車

あまの。一のりすまゝ。七車。ちりり。

恋のまきハ車七悔よつふもたげしとろろ

刻々そのカ車よせしうまつて恋く秋んく

○<sup>キ</sup>ル<sup>キヤリ</sup>性<sup>性</sup>は花をまきまきハ朽れろ

○<sup>カハヒ</sup>枕<sup>枕</sup>。あー。美ー。女房初とき  
たそよをまきまき

えてまきまきをさけしたせ性くそ白を。中ナカ見

かろく初く歩障の那ろろ

○<sup>カハヒ</sup>寝代。寝白。多<sup>タ</sup>部<sup>ツ</sup>古<sup>コ</sup>毛<sup>モ</sup>。かーろく

たろく初くまお二重初めひまよりの後ぶお二重

るまよりのまろ

○万葉ふ集。三代集。拾遺。返権。

○八代集。三代集。返拾遺。今集。

○十三代集。續古今。新勅撰。續拾遺。新古今。

玉葉。續干載。續拾遺。新拾遺。新古今。

新干載。新拾遺。新拾遺。新古今。

○源氏物語。きりつ不。夕白。

あまの。あつひ。あつひ。あつひ。あつひ。

二六

古今和歌集

世宗法

給合 おれ 初 おと 給負 こころ

乙女 おとこ 初 おと ころよ

あけ あけ 初 おと ころよ

あけ あけ 初 おと ころよ

あけ あけ 初 おと ころよ

あけ あけ 初 おと ころよ

あけ あけ 初 おと ころよ

あけ あけ 初 おと ころよ

あけ あけ 初 おと ころよ

あけ あけ 初 おと ころよ

○はこやー。隠蓑ー。竹糸ー。神被

○枕着法玉眼抄 おとこ

くの時礼の虫の末まはりのく おとこ

え縁心家の板巾くく おとこ

九年うをの おとこ

○女戒 おとこ

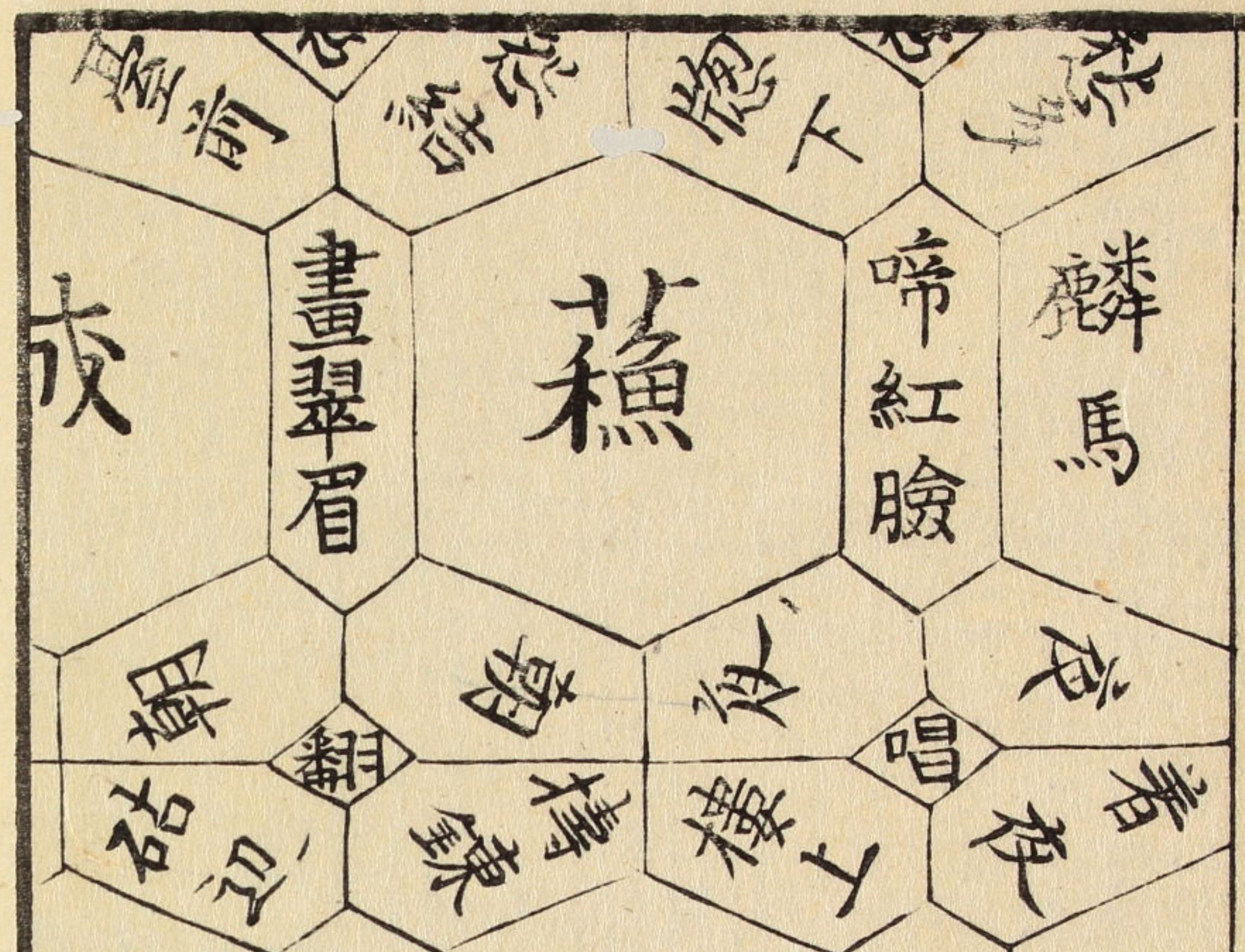
本朝女鑑 おとこ

女式目 おとこ

○錦字詩 おとこ

そと社考表の人のけく おとこ

卷之七



七十七

詩の果字くどろりめ  
しつね摩

詩清り

愁多窓下啼紅臉  
怨結臺前畫翠眉

夜々啼紅臉  
朝々畫翠眉

穉字回文の詩ハ晋の賈誼の書の織て天子ニ献  
する物なりて去來の内行々よきを裁清り七言  
ハ又五言ハ白清りよりいひて穉字の十一ツを  
詩の心ハ詩の心を穉字の十一ツを以て  
を類を志しむ

卷之七

七十八

買色

○傾城。傾城ケイセイ。傾城ケイセイ。

漢書李延年哥北方有佳人絶世而獨立一顧

傾城再ケイセイ。傾城再ケイセイ。

傾城再ケイセイ。傾城再ケイセイ。

○傀儡。傀儡クワイ。傀儡クワイ。

楊氏云晝遊行謂之遊女待夜而發其淫

奔謂之夜發ホツ。奔謂之夜發ホツ。奔謂之夜發ホツ。

○うき川舟。うき川舟ウキカハフネ。うき川舟ウキカハフネ。

○一扱書。一扱書イツヤクショ。一扱書イツヤクショ。

○うき奴。うき奴ウキヌ。うき奴ウキヌ。

○あまの子。あまの子アマノコ。あまの子アマノコ。

○はま定め。はま定めハマサダメ。はま定めハマサダメ。

○おまの子。おまの子オマノコ。おまの子オマノコ。

○はま定め。はま定めハマサダメ。はま定めハマサダメ。

○おまの子。おまの子オマノコ。おまの子オマノコ。

○はま定め。はま定めハマサダメ。はま定めハマサダメ。

類聚

○白女シロメ。白人ハクニシ

ちろめとよハ花女の惣名なり  
くらくらるりく物をもささるぬ  
ハて一花女白女  
トキ

よくよくふと又ふかハね口の花女も  
今白人とよしもけはよく  
あ

○私比血フナヒク。他トキやろふ

○私シ。私書シカク。私舟シフネ

えんりり衣まづも持  
く白拍子の果ハ英一様

く馬を馬をばつて  
をばつて未だ

○おとり子オトリゴ。りリ。りリ

白石  
の去

く又よをともな  
はなをばつてとつとをせうり

○おまオマ

いし能を  
丸あきせ

いしとま  
ようく子

○梅ウメ

今まある  
かいらん

○教サシ

チヤ  
さん

○よヨ。ねネ 花女の名も同去よりおとよハたれそつと中よ  
うる四字ありまをさへむとよま

○定家サダノカ。天職アマノシゴト。天神アマノガミ。川カハ。私シ。新ニ。艘フネ

○糸イト カプロ  
ニムくうり  
みる

おまー  
り

○おオ。やヤ。まマ。妓キ。娼カウ。女メ。小コ。女メ おやま  
お志シとま  
ハイト  
味

○教サシ。女メ。小コ。女メ お志シとま  
ハイト  
味

○牙キバ。小コ。勅トク。のノ。牙キバ。自ジ。明メイ。流リウ。籍セキ。牙キバ。上ジョウ

○牙キバ。流リウ。苦ク。界カイ。紅ベニ。粉コ。のノ。名ナ。丸マル。ちチ

類聚

ハ



○何つ不子。○身を賣入。○走ら子。○セイ

○麻衣カコヒ。○米うも。○花車。○仲居

○抗ミツ。○破瓜。○上頭。○封タイ常間。○牽頭

○飛子ヒ。○弁比丘尾ヒ。○お察リヤウ。○えハ後浄の地を懸望

○地獄チゴク。○泉別言は一体おちと弁よき一抱めし

○今了ふ志もけの。○お敵オテ。○字「女」もあも

○ちこころつーの

○身。○脱籍。○てん

○全盛。○都知。○鴉婆。○すりきり

○及中。○物日。○役日。○紋日

○物束。○大臣。○家打。○花雪

○包托。○預知。○まて。○わ

○見立。○首立。○居つ。○者。○釣後

○曉軍。○初令。○訓深。○くき。○世狂

○おげん。男ま。そめき。驍發カマ

○舟こむきつもの。主人の侍を

○水菜の糸いよかるけ。衣ケシ。侍の糸

○着袴ツッ。廻男ハシヤウ。牛キウ

○廻男ハシヤウ。牛キウ。すががき今夜

○限の左敷。川四。積四今夜

○さし。るる。傘。大臣。ちる。足。障

○難言つぎや。隆達カモウ。乾込カ

○念者シヤ。惣良カ。山カ。子カ

○念者シヤ。惣良カ。山カ。子カ

○念者シヤ。惣良カ。山カ。子カ

○念者シヤ。惣良カ。山カ。子カ

○念者シヤ。惣良カ。山カ。子カ

○念者シヤ。惣良カ。山カ。子カ

巻之三

人並。楊屋。桑屋。編笠ヒヤシ

三あさん。ひやくコサ。まがきサカ

○清原上の町。才堂才堂の町。石田石田の町

○出口又うら御。桑シヤカ。葎シヤカ

○石口。ささハ。垣。ねねねね。ねねねね

○卸ヨロセ。はめはめ。のの。桑屋。まま

たそたそ。ねねねね。三筋町。たより屋

○小向。祇屋町。宮川町六波羅

○吉原揚屋町。京町伏見町

○お町吉原。大門。日本堤又十

○物カ。物カ。物カ。物カ

○油の梅正徳の。俄。物カ

○大子大子

○大子大子

巻之三

八十一

山谷和。三挺立。三挺立 田丁 泥町。田丁

又体て足もほひたけを つらうとれをさうとさう。足あまひ 足あまひ。

丹波屋。丹波屋 丹波屋 丹波屋。

丹波流。一安。丹波流 一安 丹波流。

白鶴。白鶴。白鶴。白鶴。白鶴。

月形。月形。月形。月形。月形。

丸鞠。丸鞠。丸鞠。丸鞠。丸鞠。

新所。新所。新所。新所。新所。

音。音。音。音。音。

少理。少理。少理。少理。少理。

大井川。大井川。大井川。大井川。大井川。

おひの里。おひの里。おひの里。おひの里。おひの里。

おひの里。おひの里。おひの里。おひの里。おひの里。

おひの里。おひの里。おひの里。おひの里。おひの里。

おひの里。おひの里。おひの里。おひの里。おひの里。

おひの里。おひの里。おひの里。おひの里。おひの里。

新編

多川カニ日カキ高タカ原ハ橋ハシ本ホン江エ口ク

神カニ塚サキ日ヒ玉タマ造ゾウ日ヒ墨スミ漆シ山ヤマ勢セ聖セイ日ヒ

木キ过カ室ムロ尾ビ日ヒ鞆トモ日ヒ

乳チ字モリ柳ヤナギ所ショ家カ積ツミ日ヒ精セイ多タ日ヒ

丸マル山ヤマ赤アカ字ジ浮ウキ日ヒ古コ市シ日ヒ

大ダイ破ハ小コ破ハ日ヒ表ヒョウ川カハ加カ化カ親シン坂カ

三サン戒カイ紀キ野ノ来キ日ヒ意イ丸マル日ヒ末マツ屋ヤ町チヨウ日ヒ

持チ木キ町チヨウ見ミ状シヤウ詭キ皴ソ子シ虎コ氣キ中チュウ者シャ

太タイ之シ介ケいイ々々七シチ有ユウへヘ乃ノれレとト男ヲ

新編

八十五

神歌

○五所の神

神社考よふ所の神ハ男女の中を  
ちりのよ別をまゐる

○之痛の神大和

神よりハ伊勢の人多し  
ちりしむれハ里 田 江

之宝山

三法山

神忌山

神うき山

神逸山

神南徳山

いづれハ之痛の名也 云旨

○志る一の杖

結とてし意 新とて山の山む  
人をたすよとあり

志る一の杖

志る一の杖

杖立る門

新のおと巻

○志布弥明神歳

志布弥明神歳  
志布弥明神歳  
志布弥明神歳

式部を介 疾如の乳人の志る所と

きよね川

きよね川

山一の里一詣一

詣一

○鉄神

○世の河系

○釘打

○生成

るし面の

○鉄神

○世の河系

○釘打

○生成

○箱根権現

れ川 地神者四彦を出入る  
新文よ入てを玉巻と

笑くくふきあませすのきよね川

○足柄明神

れ諸豆の徳塔坂の神あり  
あふふの神一産むる男神

きよね川一男神  
女神けりひるるり  
とやありんと 離る志るよとてまの留を

系

八二六

ちり女の髪をくちりよかまの尻貞ん固らるへ一男

○玉津嶋の神 紀州和奇浦允恭天皇の  
此妻衣通姫と帝を恋

なして我せこの奇よらるよ以上又此の神とヤ

○葛城の神 大和  
みなくき白 鳴るひのき  
扱のちきり 才たや

言はし 一言主 冬来海の橋

○阿蘇の神 下総○小栗さす  
お栗さす  
神よれる

今ささよのしとくさめやうらるきあまの神よお栗さす

○若狭の神  
麻治し  
云後の神よらる

○筑土の神  
糸四月新、女の男持る敷  
いと土とてるをつとつて

つとつておのるつとまの糸とせらんけるきんのるの敷えん

○卯辰の神 中○虎打の糸○卯辰の杖

糸四月新、女の男とる敷と神と神もて打とつ

ハ重ハハ女と神とを打とつとまの糸とねあ

○かしの糸  
若狭筑後神よるうけ又うひ  
とつて男女糸信して自他の男女

よ打とつてうきよあ合めり  
とらのとつてとつと

○あさみぎの神  
男女の糸をさましくする神  
後をさむくおまは和合する

○針女社系  
此神女神とておしくまの糸をさ

針供養  
みとし

○神萱屋の糸  
伊勢屋上山若狭の糸あり  
正月八日十二月八日

糸

夜今の神主事、男女此くのものをすく、糸  
指の男女、是を捨て、男子女子をくくる、とす

○**報魚森** サコ子 此外、大森、此方の報、男、女  
多く、白、神、一、お、し、め、し

ある女、も、は、一、お、ハ、神、の、四、一、の、あ、と、つ、り

○**柏を袖に包** 三、角、一、の、一、  
さ、め、く、さ、り

伊勢、大、神、ま、と、て、柏、の、え、を、お、と、占、り、あ、り、説、ま、く

此、外、や、ら、の、柏、と、ま、ひ、て、ま、を、ま、袖、よ、つ、と、て、を、ま、

○**伊豆** サ、イ、ク、ウ 帝、の、出、張、伊、勢、  
イ、ツ、キ、ノ、ミ、ヤ 大、神、宮、一、仕、上、と、す

○**伊宮** サ、イ、ノ、ミ、ヤ 伊、勢、の、宮、を、い、ふ、は、八、月、上  
旬、よ、伊、勢、と、入、り、よ、り、八、月、と、無、事、と、い、ひ、て、九、月

上旬、吉日をえり、川よのそと  
○**女あ當** 伊、ま、ま、仕、女

○**宇治の橋姫** お、し、り、う、ら、よ、い、く、と、う、方  
と、や、我、を、行、ん、と、治、の、は、い、ひ、あ

○**是は潔なり** 潔、を、洗、は、ん、と、お、ハ、柄、杓、二、本  
洗、を、洗、は、ん、と、お、ハ、柄、杓、の、鹿、め、く

○**アセ** ア、セ 石、木、を、も、て、祈、  
お、そ、ろ、う、や、あ、せ、の、枝、を、

○**よるべのあを香** 神、あ、の、あ、と、い、あ、を、香、  
て、祈、言、あ、る、と、す

○**歌うける** 歌、う、け、る 歌、な、ど、く、○**神く** カ、ハ、ヤ、ソ、ウ 祈、  
カ、ハ、ヤ、ソ、ウ

○**祈る** カ、ハ、ヤ、ソ、ウ 祈、  
カ、ハ、ヤ、ソ、ウ

○**祈る** カ、ハ、ヤ、ソ、ウ 祈、  
カ、ハ、ヤ、ソ、ウ



○<sup>フヒヤラ</sup>巫廟。かゝるの雲。約束の<sup>楚</sup>ぬ。

王神女を意てちきりをするをうみく時神女をいこくあゝい言とさうう夕よはるとうる田多

○庚申待 いひあゝいせり。七夜法師を付房

○結ふの神。月下老人 紅糸をれてま

○飯帚の地蔵 飯帚ハ神后皇后異玉をいふの時さのい吉例とそ

○大和孫 大嘗年令よあそし昔吉地とそ天人の孫をうつてそ

○磐河孫 宇波の孫とそ天人の孫をうつてそ ○东托上

○大原神子 山城大原の神子 ○信濃巫 信濃巫女

○長谷寺 大和泊瀬寺 長瀬 小長瀬 五

○<sup>ミアカシフミ</sup>川。大もりく かくらく ちんせこもり

○<sup>ミアカシフミ</sup>灯久。文終 日 ○大あせき くいんを人の在示のさあ

○妻帯寺。釵の山 ハヤシ ○血の池

○衣裳競 競の女をうけしひおもしてするを

○三井寺 七月十立ちる女人を奉侍

○八十八

○高雄法花令

二月十日女人

○高尾家系

若川の尾中ニあることまじてのゆゑとてひねるる女の  
もあきうらんとするをこの人めもをてるとせうらの王  
生ね言よあことまじつこれのおもけうらうし

○七夕

五雜俎といひく續新撰に武丁姫を  
言をあけ竹如意ニ系槌の辰辰を祀

歳時記よえいふその方一列者の如も在んある人の  
用へきるすあひゆけ和漢古くいひ行て万葉を  
介集もあきくといふとふ人女子の竹を口まとする  
よろくとあれい家ののそつらう信て七夕をたるはくと  
よあるはう女七女男七女といふひうともあはれり  
女十ハタたるはハ織女の一息とて七夕をたるは  
○織女 といひふ万葉といはる

○一年迄七夕耳相人之○壬午年織女

七トハセニナ又カノヨノミアフセトリ ヒコホシトタナハタツイト  
タナハタノイヲハタ

○桐様之五百機

天の川	梶の葉	祝あゝい	かききのはし
羽ひの糸	かす小袖	さをすぬ	くわらひ
むきくく	袖つく	こもつぬ	つまむらひ
いそまう	魚の意	まき	魚のワラ
星合	とわつま	らえ	乞巧奠

# 乾坤

意の向ふ高きと云ふ意知なき在り

○志の母山 美川 子の山 小野の山 大野の山 山上  
 うらその山 小野の山 小野の山 小野の山 小野の山  
 積山 アツキ 小野の山 ミツア 乾嘉山 日 遠坂山 日  
 のちせ山 若 待 子の山 妹 脊 山 紀  
 めをの山 ツツ 末の松山 えの松 中の松 末の松 伝と寸

占山 大 神 振山 かくき山 キイ 意の山 右  
 志つえと山 宇 津 山 カス 里 登 山 上 添山 岡  
 赤 鳥 川 一 井 一 井 小 野 津 川 若 務  
 海川 セイ 志 丸 川 ツム 思 川 シツ 子 持 川 上  
 中 川 原 志 津 川 志 津 川 志 津 川 志  
 あひそめ川 日 志 津 川 サト 又 訓 川 大  
 一 担 川 子 自 川 コクテ 志 津 川 足 占 山 コニタ

密サヤキ港コヒ橋コヒ 徳ヲ海タ橋エ ッム 房山橋スカタ 形スカタ 橋スカタ  
義作ツキ 徳ツキ 橋サト くらるべきのあは 樹をうつし  
 のあは山ありぞのあは 大いそごのあは セイ  
 くららぬのあは 山ツム 思ツムのあは 誰タレをツリあは  
アハレツリ 哀アハレツリそ山カイ 立カ支イのあは 山ツム 恋ツムのあは  
 志ツムのひの思ツム 凡ツム恋ツム思ツム 悟ツムの冥ツム  
 下ツム廻ツムの冥ツム なるこそその冥ツム 遠ツム坂ツムの冥ツム

見るめの冥ツムをへたての冥ツム 函門ツム 司ツム冥ツム  
長門人ツム妻ツムの冥ツム 信妻ツムあはの冥ツム アハレツリ穴ツム 冥ツム  
里丹コ あツムこツム 理ツム山ツム 自ツム 柳ツム 理ツム 大ツム 差ツム 理ツム 上サ 橋ツム  
マヒ 婦ツム 眉ツム 理ツム 中 理ツム 佐ツム 藤ツム の理ツム 辺ツム 山ツム 又ツム 深ツム の  
大 碇ツム 見ツム 赤ツム の理ツム 相ツム 人ツム 又ツム の理ツム 後ツム を  
 我ツム 牙ツム の浮ツム 橋ツム まツムつツム 浮ツム 二ツム 見ツム 浦ツム セイ  
 見ツムぬツムめの浦ツム ちツムぬツムの浦ツム 又ツム 立ツム 浦ツム 橋

屏風浦と手洗浦あり 洗浦紀

形見浦紀 河漕浦セイ あはての浦尾

あおせの浦老 恋の濱ハ 妹ウ 橋ハ

志のひびきイ 別橋出 床橋尾 姫橋

橋タ 風流橋ユ 二見の乃ハカミ 傾城塚橋

と處女塚大日 男塚女塚山 小町塚日

鳥羽の恋塚盛遠書 佐野

舟橋上 舟下 田女大 父母小

古恋橋カ 恋橋ハ

大より源ノ 誘ふハ 近ハ

八橋ノ 八橋ノ

理中の橋ノ

我ハ 我ハ 我ハ

○虎うゑ五月廿一日○虎うゑ五月廿一日○皇まゑあま

○三山大 畝ウチヒ火山男神耳成山男神香山女神カク

と妻あゝそひまゝカと妻あゝそひまゝカと妻あゝそひまゝカと妻あゝそひまゝカ

○内友坊ホウ 内竹ふのあゝまゝホウ 女メよメふフをヲちチすスふフ ○女メ皴シ上ノ局ノ

○射タイの家ヤ○二ニのノ所ト○妻ツ家ヤ つまを運ぶ

○織オリ友トモ○總ソウ友トモ○他タ家ヤ ふ人月のそりり

○長ナガ押オシ 長ナガのノ曲マカあア少コよヨ夏ナツ妻メ女メ房ノのノ

○中ナカ省ノ○元ゲン男ノ浪ノ 紀キ前マヘのノ浦ウラよヨをヲ

○死シ考カウ 死シ考カウハハをヲんンをヲ考カウハハめメんンをヲ

死シ考カウめメをヲいイまマくクうウつツてテおオえエるルれレのノ人ヒトをヲ一ヒツつツをヲ

らラのノをヲ一ヒツのノ念ネン○一ヒツのノひヒとトりリぬヌ○一

のノ叙シヨ又マタ 考カウ考カウよヨまマ女メをヲ帝テイ百ヒャクのノもモとトめメ妻メのノ男ノをヲ

をヲまマまマてテ井イのノ井イよヨまマのノ女メをヲ百ヒャクのノ男ノをヲまマまマてテ白シロのノ皮ヒ

二ニ人ニのノ念ネンハハるルうウてテをヲ一ヒツのノ念ネン○一ヒツのノひヒとトりリぬヌ○一

切<sup>ニ</sup>。入<sup>ホ</sup>。麟<sup>カホ</sup>。虎<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい  
 思<sup>カホ</sup>。男<sup>カホ</sup>。入<sup>カホ</sup>。麟<sup>カホ</sup>。虎<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい  
 た<sup>カホ</sup>。男<sup>カホ</sup>。入<sup>カホ</sup>。麟<sup>カホ</sup>。虎<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

○に不<sup>カホ</sup>の二人<sup>カホ</sup>。白<sup>カホ</sup>。白<sup>カホ</sup>。白<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

女<sup>カホ</sup>。白<sup>カホ</sup>。白<sup>カホ</sup>。白<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

ひと<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

山<sup>カホ</sup>の呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

た<sup>カホ</sup>の女<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

り<sup>カホ</sup>れ<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

を<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

持<sup>カホ</sup>上<sup>カホ</sup>て<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

○る<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

二<sup>カホ</sup>人の女<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

あ<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

○待<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

カ<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

や<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

ま<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

さ<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

男<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

女<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

三<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

依<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

呼<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

呼<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

呼<sup>カホ</sup>。呼<sup>カホ</sup>ハ雌雄<sup>カホ</sup>。昔<sup>カホ</sup>よりい

あつ。縮頁習多

あつをいふれふせの  
のそりすハ人を意強よ

まといさきまーいりてはな

○錦焼 ツヤヤク このよろく  
昔女あつ

は奇よまうて 勢詩とてり  
思よあれしうとまのあられハ思よあつをいふれ死

たりと若をいりて 指よこのよろとふあつを入り  
送り火葉をさうりハあつ人 従白よあついられハ

思よまよまよの女あつとておのひのひひき  
○はまつく 約 くま 恋する所ハあつ

○火氣のは衣。燕の中の子安貝  
○蓬萊の玉の枝 竹丸 ひめよけさーあつ  
ふよこつのおをたあつ

らよあつへしとるあつをいひてはな  
あつ後八月十五およ天上まうり 男 ○帰葉松  
ツ

○あこやの松。岩代の松 紀元 皇子  
むやんをさーねの松をむやひちうひせーるりりお

こりて式ハあつを法やちうひするもろく 恋するあ  
可思しらのたまねえをひき法まーくあつ又

かたりえんし思しらのあつはなもさる法ねんもさけぬ  
むしあつてんあつふさく ねよあつはなをせねあ

とちあつていのうよ向て依てよ向まとい  
○玄草 世草 一説あつふあつをいふ花ハあつ  
位者のあつあつ女のをあつこめてあつ

れハあつをいひてはな 又ふ人のあつあつ  
毛北坐裁萱草能忘憂 己あつをいふあつ



付られとをにのささる

ことりありられ

○鬼の醜女草

コウサ

おまふれせぬ草こきるあふ人人に粘てくるへさる草こきふれんとすれと粘るぬぬこ

コウサのさる草よの

○妹も似る草

山山

○女布花

をここハハ花白こは女のさよをてつくるヒサコ

○空

むさうゆふ草むさう女またとつる草こ

たくとつり又は草とよさの草

○空のゆり

あけをこ

トコナツツハ女のみ

○燕子花

女をかきつ

○妻恋草

おまよ

○男女の花

トチ

○鬼灯

○山茨菖

女の歌へ

○新州

草撰式

る松を巻神て仙

まハまとりるのま草のまひあて

○るつり

草

○仇名草

さく

○夏見竹上。柳さする あつをそと

○月竹ツキウサ。鴨カモは草カサ。草カサ 皆一歌なり

アム草カサのけぬきカサを草カサとハ今イマ並ナラゆユ除ノるル草カサのつらツラあア相ア多タのノ月ツキ草カサのノつツらラとト女メ竹タケ

○梨子の花オモカケ 梅を教る。女竹

○俊州オモカケ。いイえエぬヌ色シロ 昔山に男女のるよりは急を

○思州オモカケ。あアつツらラひヒ草カサ。かカこコちチ 通抜人の上らうこひもてあつらふをさうらう

○まきり草マキリカサ 葉とおひ。ひヒるル竹タケ 葉とおひ

○後の竹ノチノタケ 袖を急 いそのくさを急

あアつツらラひヒ草カサ ハ甲不とあれた

あアつツらラひヒ草カサ 人のたまさうま

あアつツらラひヒ草カサ そのくさる

あアつツらラひヒ草カサ そのくさる

あアつツらラひヒ草カサ そのくさる

あアつツらラひヒ草カサ そのくさる

せつとこころをさうよるはあめゆらうあふまきうらも  
 をりうあまへしとてまきのおよころむひのま  
 けあまう山に生あうらをそこまよおむひてふ  
 けあまうあうらまきしとてふのぬ又ぬく  
 昔生あうらそ時け男さてい他のらあうとて  
 子あれうらとておもくけ草のぬすちるはき  
 ○名ね草 牡丹こむしある女け花をま  
 して多くくまておを徳ら  
 けもあてしとあひひるは是よとて男他のら  
 あうとてりえんしとてまきとるまきしとてま  
 きてえのまきけりるとえんお人のらうとて  
 るとらうらまきとてあひひるは是よとて  
 ○穀川 了らに別くよとてまきとるまきしとて  
 二もひまきたれはそのやうはありふると

いひひとらうらうら  
 ○七美ふの南天 帰人鏡の下は打あは  
 けあまうのまきしとてまきとるまきしとて  
 定家には式子四段まよ  
 ○下をふ草 根の  
 女ハ身をまきし呪するまきしとてまきとるまきしとて  
 女のみまきしとてまきとるまきしとてまきとるまきしとて  
 雅也とてまきしとてまきとるまきしとてまきとるまきしとて  
 ○草のゆ 海きまよ  
 後浪 後並後藤  
 あうらうの地またとてまきとるまきしとてまきとるまきしとて

いりり可きるるそのおのひまのりりるるけの

○なよ竹。なよ竹 女竹とては竹と云たりやうる女の姿を

るまらうる竹またとくしけのせいを川竹とては

○ま〜〜竹 娥皇女英。夕白の省

○未摘花 ぬこ函鼻の。松の媚 桃之夫

○ま〜〜糖。油の香。む〜を志のぬ ハナタチハナ

おつきまつあたるときのうをけに若の人の神のまをする

○海棠 美人の成。梨花一枝毎を帯

る〜〜のころ〜いぬのる〜よふりか〜と

○塚の柏 「哀死るハ苔むすつま〜つりてもと

○ひめは〜め 「誓」白山おまは夜良王日記飯と

食すり始とよ又おる始とて

るのり始とよ又女の衣めひを〜むるとい後

あな」説今信ま婦更接のるを〜らうとけ

後より好を嬢れのんを〜てらるゆ〜おしくた

ハむれ〜るや〜れと合〜くさ〜いあ〜し子孫のたを

つ〜るんのたりむれ〜るるやあ〜ん

○かゆ杖 西月十める杖のまよ花を画て女の

後を打ハ子〜む呪ろ〜と

○月見の祝 六月十あ〜又十あ〜十あ〜の女子〜り

袖の人そてせめ丸ひ〜を〜まき

○桑摘 小く取らねとゆふ言ハ字流る  
 れハらちと裁はかこも季立の内蚕 雑田植石  
 醋白心灯の影さゆくありし附録より  
 句作よよりて意も察もろるへしを産の宗速  
 形むふの師よりて句作初考ありき也

恋梨終

嘗て了る書中よみみあり  
 都つとむの如しとおこころ  
 志うらまらぬよすましく小元詞乃  
 短あま編なをよこしあつれ  
 やはらとあまこころをうらま  
 はたさうしむしむ子と  
 つらあまこころをうらま

雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ

雪中巻完末

返

雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ  
 雪のふりてはしらけぬ

人志代平一なる一志の事あはけ先  
 るの事には申す金ららし共し  
 こねて紀記あはまよあけ代この  
 撰集示のせしは終る母のそく  
 こそすしとて何くすたのこころ  
 をねる御傳達あはれ入あも  
 さまよめ武とてはつてとてい  
 つぬらひのりつてはまのめあはれ

心山つみとほくと山の志あはれ  
 さまよ谷れかげらのさうし  
 ことよゆふとつて人もあはれ  
 さかかた人乃ふとていさよとあは  
 るしとては存慮あはれ  
 推のさあふとていさよとあは  
 るしとては存慮あはれ  
 志えりさへつていさよとあは

うこれいしあしと  
は平きう一乃乃あしとあは  
いしきういんまき  
少後もあしとあしと  
道くまよあしとあしと  
人せしあしとあしと

文化十三丙子

律雪庵

文化十三丙子正月上木

律磨 龜北元撰

宝晋遗言 全二冊

物人傳記よりあしとあしと

意繁後編 全二冊 近刻

月並句集 全一冊 年々出版

日本橋通四丁目

江戸書林

鴨居三束



